



2025年11月28日、真宗本廟（京都・東本願寺）
 報恩講結願日中の御影堂内。壇上中央が親鸞聖人御真影です。
 私は、今現に在して説法したまう親鸞聖人に対面し、
 聞法求道に励む御同朋御同行と共に在りました。

東本願寺で過ごす二泊三日の旅、参加募集！

光といのち

第158号

—春彼岸—

2026年3月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344-2

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL http://syozenji.or.jp/

住職 釋孝昌（井上孝昌）

人生を語り合
 うところに、
 仏法の根本もまた
 知らされてくる。

金子大榮

昼間は観光、夜は宿で美味しい料理を食べめぐり温泉に浸る。日常から解放され仲間と談笑し過ごす旅。私は、大好きです。

今回は、それとはひと味違う「真宗本廟奉仕上山」と銘打つ旅行を計画しました。

この奉仕上山について『真宗大谷派公式サイト』に、「戦後、荒れ果てていた東本願寺をきれいにしようと、全国のご門徒が、お米や味噌、野菜などを携えて寄り合い集ったことが、真宗本廟奉仕のはじまりです。泊まり込みで境内の清掃を行いながら、夜はお念仏の教えを聞き、語り合ったのです。そのような歴史と願いが、今、私たちに伝えられています。」とあります。

皆さんと二泊三日寝食を共にし「お念仏の教えを聴き、語り合う」。これが、この旅行の目的です。

私たち真宗門徒の先達である金子大榮師は、「今日は、宗教家のいうことをみな聞こうじゃないかとか、尊い教えを聞かないればならんという時代ではないのかも知れません。しかし、そ

のような世の中であればなおさらのこと、我われは本当にまじめに人生を考えてみようじゃないか、語り合ってみようじゃないか、ということが大切なのではないでしょうか。

その時あなたはどうしましたか。涙をどのように癒されましたか。その喜びをどうして浮ついた気持ちにならずにすまされましたか。こんなふうに人生を語り合うところに、仏法の根本もまた知らされてくるのです。浄土真宗のあり方はそのようなものであると思うのです。」（『浄土真宗とは何か』東本願寺出版）と、教えていただきました。

師はまた、「やり直しのきかぬ人生であるが、見直すことができる。」と、聞法を促しておられます。親鸞聖人が「今現に在して説法したまう」処で、みな様と仏法を聴聞し語り合いたい。参加申込を待ちます。詳細は、見開きページをご覧ください。

春彼岸会

三月二十日（金）春分の日

十時～十一時半

真宗本廟奉仕上山

— 東本願寺で過ごす二泊三日の旅 —

2泊3日 基本日程

※この日程は基本です。入館されて最初に、引率責任者・教導・補導を中心に打ち合わせを行い、最終的に決定いたします。

	1日目	2日目	3日目
6:00		起床・洗面 館内清掃	
7:00		晨朝参拝 (帰敬式)	
		朝食	
9:00		(法名伝達式)	講義
10:00	※和敬堂へは、 11時までにお願いします。	お内仏 ～御本尊を中心に～	座談 (協議会)
10:30	入館	座談	
11:00			解散式
11:20	結成式		
12:00	昼食	昼食	昼食
13:00	日程打合せ 両堂参拝	(記念写真撮影)	退館
	オリエンテーション	清掃奉仕 諸殿拝観	
15:00			
16:00	講義	講義	
17:30	夕事動行(感話) 夕食	夕事動行(感話) 夕食	
19:00	座談	座談	
20:30			
22:00	入就	浴室	

・入館時間、退館時間について、都合が合わない場合等は同朋会館(研修部)までご相談ください。
 ・「清掃奉仕」、「講義(お話し)」、「座談(話し合い)」は、必ず日程に組み入れます。
 ・の部分は、全奉仕団共通の日程として決まっています。
 ・の部分は、内容の変更が可能です。



※写真は『京都・東本願寺 同朋会館サイト』より転写。

日程：2026(令和8)年6月9日(火)から11日(木)

6月9日(火)

6:15集合 ハイウェイオアシス富楽里 高速バス乗り場
 ※東京駅・東本願寺で合流することもできます。
 6:25発 房総なのはな号4号 8:01着 東京駅日本橋口
 8:30発 東京駅〔のぞみ17号(18番線) 10:44着 京都駅八条口
 11:00発 タクシーで東本願寺へ 11:15着 東本願寺御影堂門
 11:20着 和敬堂で受付
 〈以後、上記2泊3日の日程を東本願寺同朋会館などで過ごす。〉

6月11日(木)

12:00頃 しょうせいえん きこくてい 涉成園(枳殻邸)で昼食
 13:00頃 京都駅八条口に徒歩で 14:30まで自由時間
 14:45発 京都駅〔のぞみ96号〕 16:57東京駅着
 17:20発 房総なのはな号23号 東京駅八重洲口南高速バス乗り場
 18:45着 ハイウェイオアシス富楽里 解散

参加費：40,000円 (内訳：交通費34,240円 宿泊研修費19,300円 雑費7,460円
 本山から補助金1,000円 勝善寺から補助金20,000円)
 ※帰敬式(法名をいただく)を受ける方は、礼金10,000円が必要です。

持ち物：念珠・門徒章・『真宗大谷派勤行集』(赤本・青本)・筆記用具・
 清掃できる服装・寝間着・洗面用具(タオル・歯ブラシ・ひげ剃り)
 ・持薬・マイナ保険証または資格確認証・『同朋手帳』(お持ちの方)

申込：4月12日(日)までに、勝善寺へお申し込みください。

参考：パソコンやスマートフォンなどの検索サイトに『京都東本願寺同朋会館』と入力すると、「真宗本廟奉仕」について動画で紹介されています。

◎ 今年には参加できない方。毎年この旅行の希望を募る予定です。



あみだどう
阿弥陀堂

阿弥陀如来を安置する東本願寺の本堂です。

ご本尊の左右には、龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空（法然）の七高僧と聖徳太子の絵像が掛けられています。

ごえいどう
御影堂

親鸞聖人が、今現在して説法されている真宗大谷派の根本道場です。

親鸞聖人御真影の左右に歴代門首、九字・十字の名号が掛けられています。



ごえいどうもん
御影堂門

東本願寺の正式名称「真宗本廟」の扁額が上層中央に掲げられています。この写真では、鳩除けの金網のためよくわかりません。

重層造りの楼上是、釈迦如来像・弥勒菩薩像・阿難尊者像の三尊が安置荘厳され、親鸞聖人が「真実の教」「浄土真宗」とされた『仏説無量寿経』が説かれている場面が表現されています。



※写真は、『真宗大谷派東本願寺公式サイト』より転写。

「予定ください」

月曜朝のお勤め 毎週6時〜

春彼岸会 春分の日

3月20日(金) 10時〜11時30分

真宗会館日曜礼拝で住職が法話

3月22日(日) 10時〜12時 ユーチューブ

親鸞教室

3月24日(火) 13時半〜16時

花まつり兼仏教を聞き語り合つ会

4月12日(日) 13時半〜16時

仏教を聞き語り合つ会

5月10日(日) 13時半〜16時

中佐久間講

5月21日(木) 13時半〜16時

親鸞教室

6月1日(月) 13時半〜16時

八日講十日講

6月7日(日) 9時〜11時

真宗本廟奉仕上山

6月9日(火)〜11日(木)

奉仕作業

6月14日(日) 8時30分〜

勝善寺聞法会

6月14日(日) 13時半〜16時

仏教を聞き語り合つ会

7月19日(日) 13時半〜16時

※地区講・月曜朝のお勤め以外は、ズームで配信します。

とし 歳が薬です

ご門徒の方で、大学を卒業された後、一般企業にお勤めになり、ご自分の六十五歳の誕生日を迎えて定年退職された方がおられます。つい先日、月命日にお参りした折に、「正信偈」をお勤めいたしました。その後、その方がこういうことをぽつりと言われました。「最近、深夜になると目が覚めるんです。会社に勤めていたころは、朝の目覚ましで鳴るまで一度も目が覚めることがなかった。定年を迎えて、だいたい深夜の三時ごろに目が覚めています。そうすると、暗闇の中で目が慣れてくると、自分がパートナーと一緒に寝ている、この寝室の天井の板が見えてくる。それを見ていると、ふと、あと何年生きておられるのかなと。横ではパートナーがすやすやと、寝息を立てながら安心したように寝ている」と。

それを私と一緒に聞いていた、その男性の方のお母さんが、こう言われました。「歳が薬です」と。「ようやく、あなたもそんなことを感じる歳になりましたか」と。何かその表情がにこやかなのです。うれしそうに言っておられるのです。

お二人のその言葉のやりとりや表情を聞きながら、ああ、教之の言葉をいただくにはこれだけの時間がかかるのだなど。初めて自分というものの存在が、一つのきっかけを通して、少しずつ問題になってきたとき、そこに出遇っていける世界があるのだなど。それまでは、一生懸命に仕事に精を出し、失敗と挫折を繰り返しながら家族を守るために汗をかき、涙を流しながら、家庭の経済を守るために働いて働いてきたのでしょうか。

しかし、定年を迎えて、ふと自分の人生をいただき直したとき、「あと何年生きておられるのかな」と。自分でも気付かない大きな声が出てきた。それに対して、繰り返しになりますがお母さんが「歳が薬です」と。「あなたもようやくそのことに気付くようになりませんか」と。これは、まさに響いたのではないのでしょうか。今まで一度もそういうことに出遇うことのなかったこの私に、響かせるものがあつた。そこからもう一度、人生を、人と生まれたということを、いただき直していく歩みが始まっていくのでないでしょうか。

この文章は、『もしもしび』（真宗大谷派教学研究所編修 真宗大谷派宗務所代表 木越 渉 発行）第88号に掲載された 相馬 豊師（金沢教区道因寺住職・修練道場長）の「人生をならう（講） いえ（堂）の住人」からの抜粋です。